

ありがとうのはな

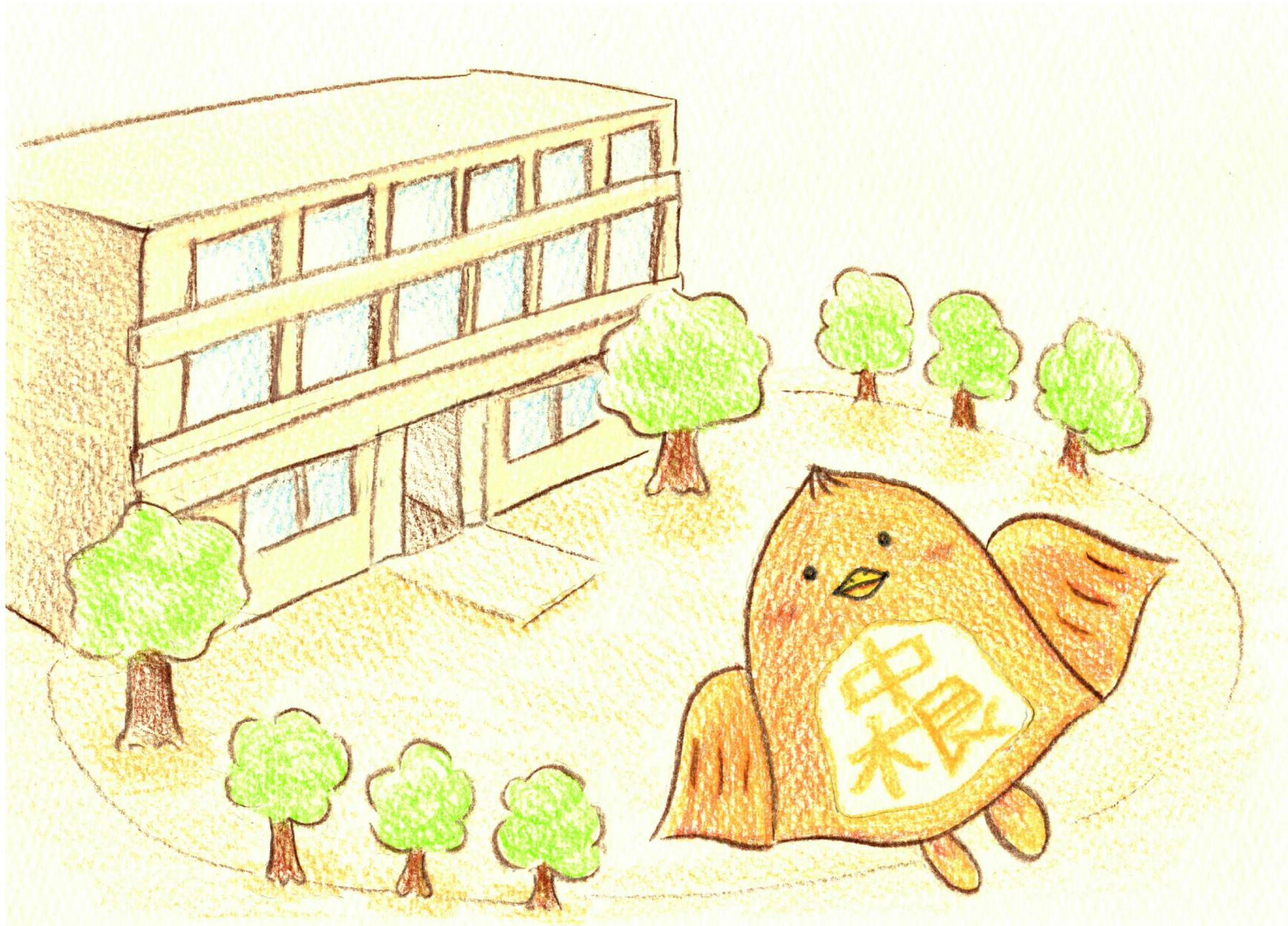




お話のはじまり
はじまり

むかし　むかし

うしくというところに なかねしょうという がっこうが
ありました。なかねっぴいは このがっこうの 子どもたち
のリーダーです。



ある日のことです。なかねっぴいーが のっていたバスに
おじいちゃんが のってきました。せきは まんせきです。おじ
いちゃんは つりかわにつかまって たっていました。バスが
みぎにひだりにと ゆれると おじいちゃんのからだも みぎに
ひだりにと おおきく ゆれるのでした。なかねっぴいーは せ
きをゆずったほうが いいか どうか まよいました。じかんだ
けが「カチカチ カチカチ」と すぎていきました。

「キィキィー」

とつぜん おおきなおとが しました。バスが きゅうブレーキ
を かけたのです。バスは おおきくかたむき おじいちゃんが
バスから なげだされそうになりました。

「あ！ あぶない！」

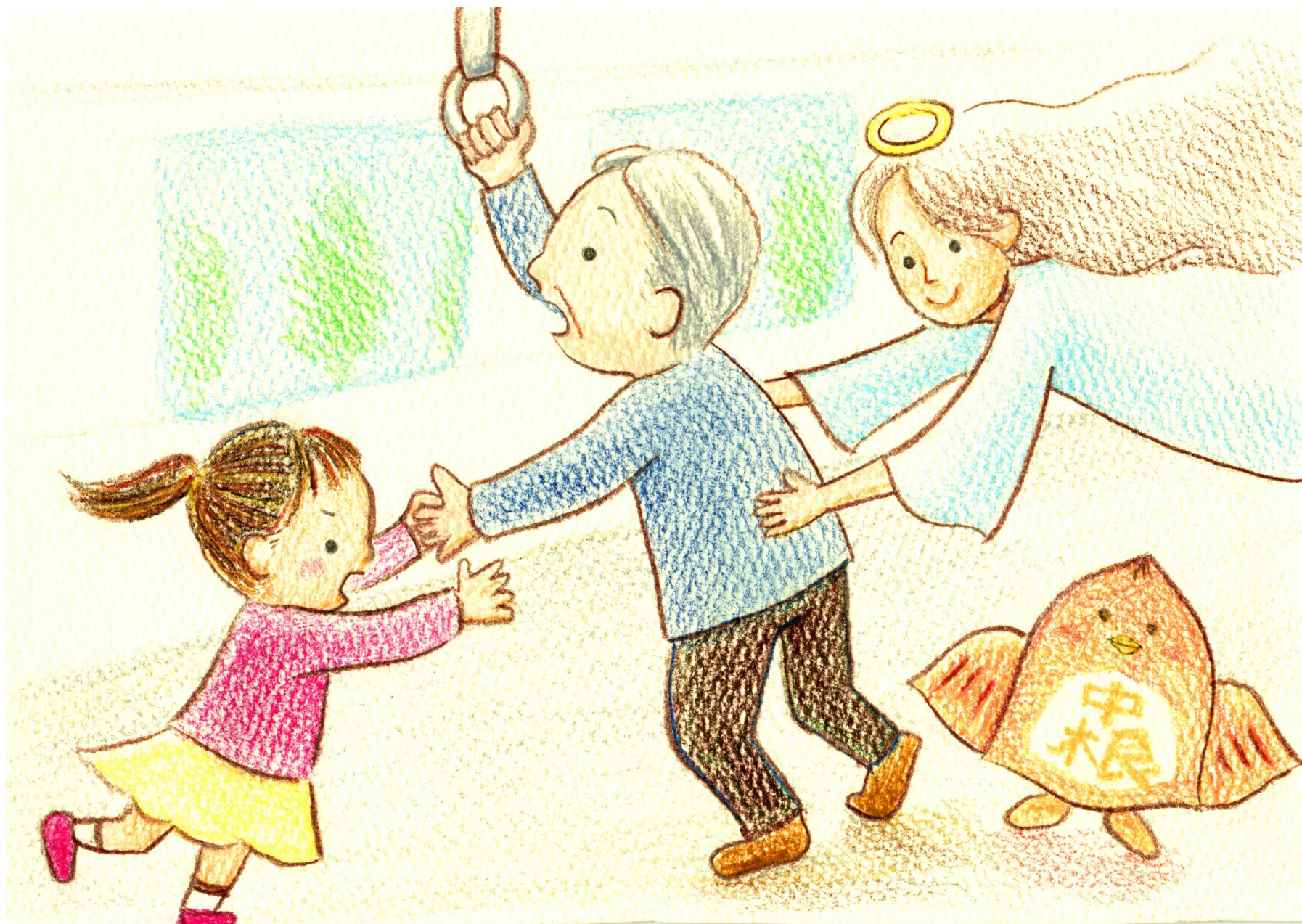
そのときです。いあわせた おんなの子と なかねしょうのかみ
さまが あらわれて おじいちゃんのからだを 「グッ」と さ
さえたのです。おじいちゃんは たすかりました。

「ああ よかった！」

なかねっぴいーは おもわず つぶやきました。

「ささえあうことが こんなに たいせつなんだ！」

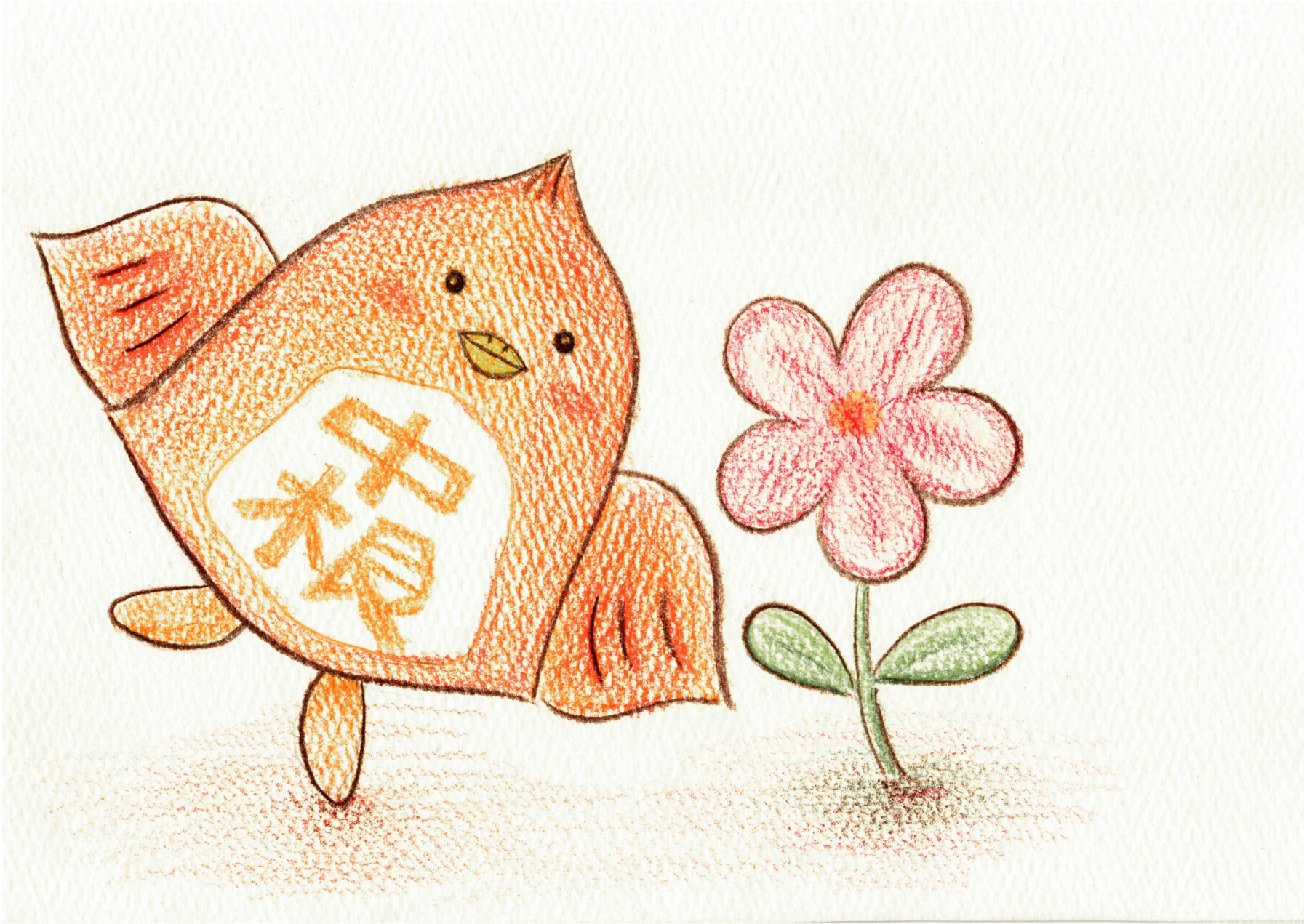
このとき なかねっぴいーは おんなの子と なかねしょうのか
みさまから ささえあうことの すばらしさを まなんだのでし
た。



つぎの日のことです。どうろで おばあちゃんが
「コロリン」
と たおれました。まわりのひとは みてみぬふり。なかねっぴ
いーは おばあちゃんを かわいそうにおもって たすけてあげ
ました。おばあちゃんは めに なみだをうかべながら
「ありがとう」
と なんども なんども おれいをいって さっていきました。



な かねっぴーは 「おばあちゃんを ささえてあげて よ
かった」と おもいました。すると ふしぎなことに なかねっ
ぴーの がっこうのきょうしつに あかい きれいな はなが
いちりん さいたのでした。



ある日のことです。ろうかに ごみが おちていました。とお
りかかった なかねっぴいーは ごみをひろって ごみばこに
すてました。すると ふしぎなことに また なかねっぴいーの
きょうしつに きれいな あかいはなが もういちりん さいた
のです。

「わー！きれいな はな」

なかねっぴいーたちは おおよろこびです。そのようすを そー
っとみていた なかねしょうのかみさまは ニコニコと ほほえ
んでいました。



つぎの日には きょうしつに 5本のあかいきれいな はなが
さいていました。5人のともだちが よいことをして

「ありがとう」

と かんしゃされたのです。

いっしゅうかんごには たくさんの ともだちが よいことを
して

「ありがとう」

と かんしゃされました。すると きょうしつは あかいきれいな
はなで いっぱいになりました。もっと ふしぎなことに
はなが ふえれば ふえるほど クラスのみんなのところが や
さしく なっていったのでした。



そして なかねっぴいーたちは がっこうじゅうの 子どもたち
に このことを つたえようと まいつき 3日から9日まで
を 「サンキュー（ありがとう）しゅうかん」とし よいことを
して

「ありがとう」

と かんしゃされるように よびかけたのです。



すると どうでしょう。がっこうじゅうに そして にほんじゅうの ひとたちに たくさんの 「ありがとう」のわが ひろがっていったのです。

やがて たくさんのひとの ありがとうのはなが いたるところに さきほこり 子どもたちはもちろん たくさんのひとが えがお いっぱい しあわせ いっぱいになっていくのでした。



お話のおしまい

うしくしりつ なかね しょうがっこう
こうちょう はせがわ やすお かんしゅう
いいだ あきお ぶん
くわな まり え



な か ね し よ う が つ こ う
中 根 小 学 校